

「まだ続く福島原発震災の困難と 目指すべき社会のあり方を考える」

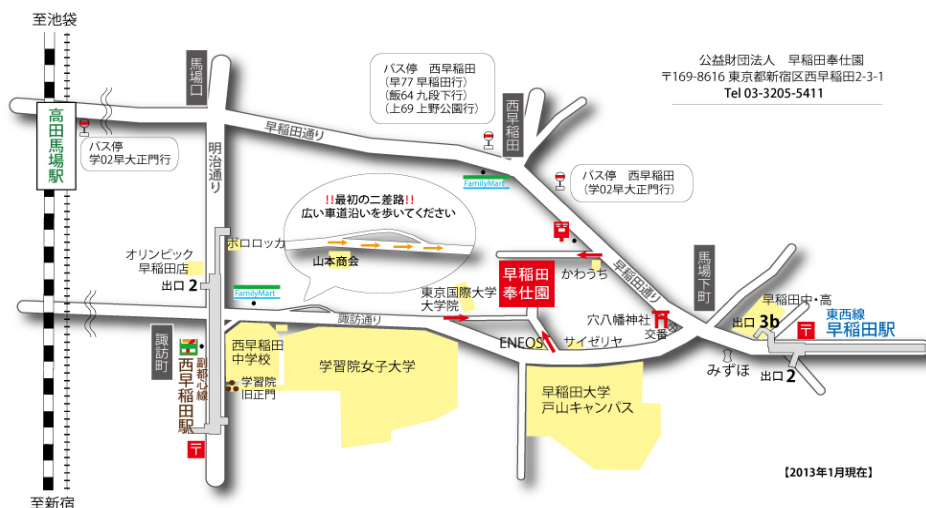
本シンポジウムでは、研究者や実務者をお招きして、福島原発震災後の開発研究を再考するとともに、福島震災後の被災者・避難者・社会の困難とNGO支援の現状の把握と共有を行います。

それを踏まえて、福島原発後の持続可能な社会のあり方を議論し、2015年の国連防災世界会議に向けての学会・市民レベルのアピール・提言につなげていきます。

日時: 2014年7月25日(金) 18時15分～20時45分

場所: 早稲田奉仕園リバティホール

〒169-8616東京都新宿区西早稲田2-2-1



- 東京メトロ東西線「早稲田駅」 徒歩5分
- JR山手線「高田馬場駅」 徒歩15分(バス5分)
- 東京メトロ副都心線「西早稲田駅」

主催: 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会、
国際開発学会社会連携委員会

共催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター福島乳幼児妊産婦プロジェクト
科学研究費事業「原発震災後の人間の安全保障の再検討—北関東の被災者実態調査に基づく学際的考察」ガバナンス研究会

プログラム

18:15 開会のご挨拶	主催者
第一部 基調報告	18:25-19:15
重田康博 国際開発学会「原発震災から再考する開発・発展のあり方」研究部会代表 宇都宮大学国際学部教授/福島乳幼児妊産婦プロジェクト代表	「原発震災後の開発研究の再考—被災者・避難者の困難と課題」
丹波史紀 福島大学行政政策学類准教授/福島大学災害復興研究所/ふくしま連携復興センター代表理事.	「福島原発事故が社会にもたらした困難と復興」
質疑応答	
休憩	
第二部 パネル・ディスカッション 「原発震災から再考する開発・発展と持続可能社会のあり方を考える」(仮題)	19:20-20:45 モデレーター： 黒田かをり CSOネットワーク事務局長・理事
古沢広祐 国学院大学教授	「原発震災後の社会と持続可能な開発のあり方」
大橋正明 国際開発学会社会連携委員会委員長、国際協力NGOセンター理事長	「国際的防災枠組みと原発災害」
田村太郎 ダイバーシティ研究所代表	「原発災害後の復興とこれからの社会」
コメンテーター (問題提起)	重田康博 丹波史紀
閉会の辞	主催者